

不整脈センター

● スタッフ（2019年10月1日現在）

センター長 里見 和浩
副センター長 矢崎 義直

医師数 常勤 7名
非常勤 3名

近年、不整脈診断・治療技術の発展により多くの不整脈治療が可能となってきました。

当院では、最先端の治療技術を取り入れ、安全性を重視したクオリティの高い不整脈治療を行なってきました。さらなる不整脈診療の向上と、実地医療の先生方とのより密接な医療連携を目的とし、2017年10月に東京医科大学病院不整脈センターを設立いたしました。

● 当センターの特徴

我々は最新の技術と積み重ねた経験を駆使し、全ての不整脈の治療を行ってきました。2016年、国立循環器病センターより里見准教授が赴任、不整脈診療の拡充をはかり、多くの患者様をご紹介いただく様になりました。特に心房細動の根治治療であるカテーテルアブレーションの件数が増加しています（図1）。国内外からも高い技術と安全性が評価され、アジア不整脈学会認定の教育研修施設として認定されています（国内に3施設のみ）。

2019年新病院開院を期にカテーテル検査室、医療機器が拡充、医療スタッフも増員し、不整脈治療を発展させました。

不整脈のメカニズムを解析する3次元マッピング装置は、国内で認可されている3つのシステム（CARTO、Ensite、Rhythmia）のすべてを有しています。

安全性を高め、治療効果を上げることが可能な、コンタクトフォースセンサー付きの高周波カテーテルも使用可能です。心房細動アブレーションの手技時間を短縮し、高周波エネルギーと同等の効果を上げているバルーンアブレーションは、クライオ、レーザーバルーンの2つを選択できます。また難治性不整脈である心室頻拍や心室細動のアブレーションにも積極的に取り組んでいます。（図2）

新たな心臓植え込み型デバイスである、リードレスペースメーカ、完全皮下植え込み型除細動器など、多くの高度な最新治療を他施設に先駆けて行ってまいりました。失神、潜因性脳梗塞の原因精査に用いられる植え込み型ループレコーダーの植え込み件数は全国的にも有数の施設です。これからも安全かつ確実な不整脈治療を患者様に提供できるよう努力してまいりますので、今後ともぜひよろしくお願いいたします。

近年の手術件数の推移

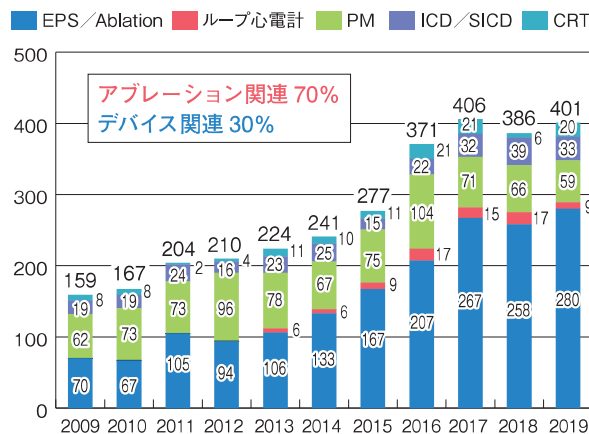


図1. 2009年からの手術件数の推移

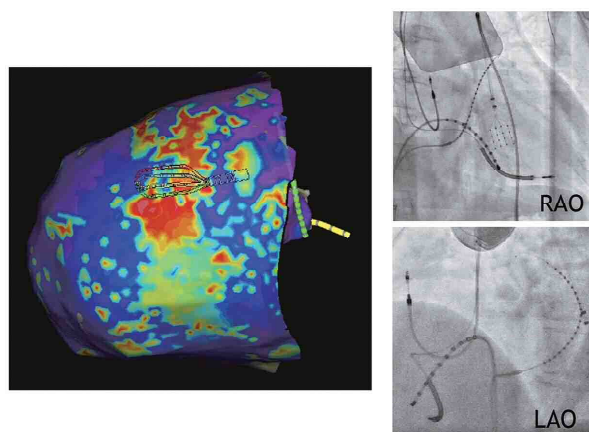


図2. 心室頻拍に対するカテーテルアブレーション（心外膜アプローチ法）